

大分県歯科保健計画（仮称）概要版

I 大分県歯科保健計画（仮称）策定の趣旨

1 計画策定の背景

大分県では、国の80歳以上で20本以上自分の歯を保つ「8020（ハチマル・ニイマル）運動」推進対策事業に基づき歯科保健事業に取り組んできましたが、本県の幼児、児童のむし歯保有数は、年々減少しているものの全国平均とは大きな開きがあり、さらに、要介護者や障がい者（児）の歯科保健への支援体制は十分とは言えない状況です。

このような状況を改善するため、「大分県歯科保健計画（仮称）」を策定し、本県における歯科保健対策をより計画的、効果的に推進することとします。

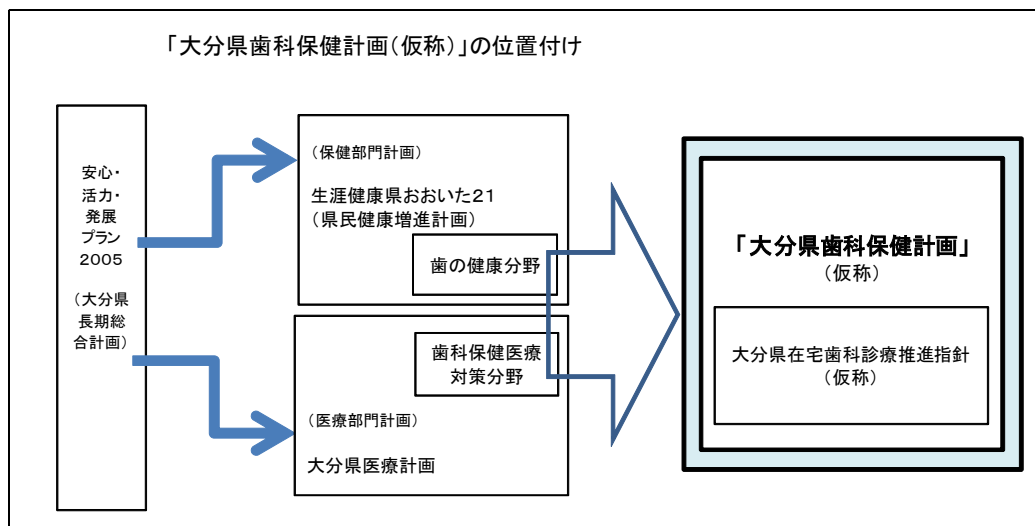
2 計画の目的と目標

本計画は、県民が自主的に歯や口の健康づくりに取り組む健康的な生活習慣の定着を促すとともに、その実現に向けて、県民、行政、関係機関及び団体等の役割を明確にするものです。

さらに、県民の歯や口の健康への関心を高めるための教育、啓発に努め、全県民の歯や口の健康に関する意識の醸成を目指します。

3 計画の性格と位置づけ

本計画は、「安心・活力・発展プラン2005（大分県長期総合計画）」の保健部門計画である「生涯健康県おおいた21」の歯の健康分野の計画となるもので、医療部門計画である「大分県医療計画」と整合性を図り、関係機関及び団体等と連携して総合的に歯科保健施策を推進するための基本計画です。



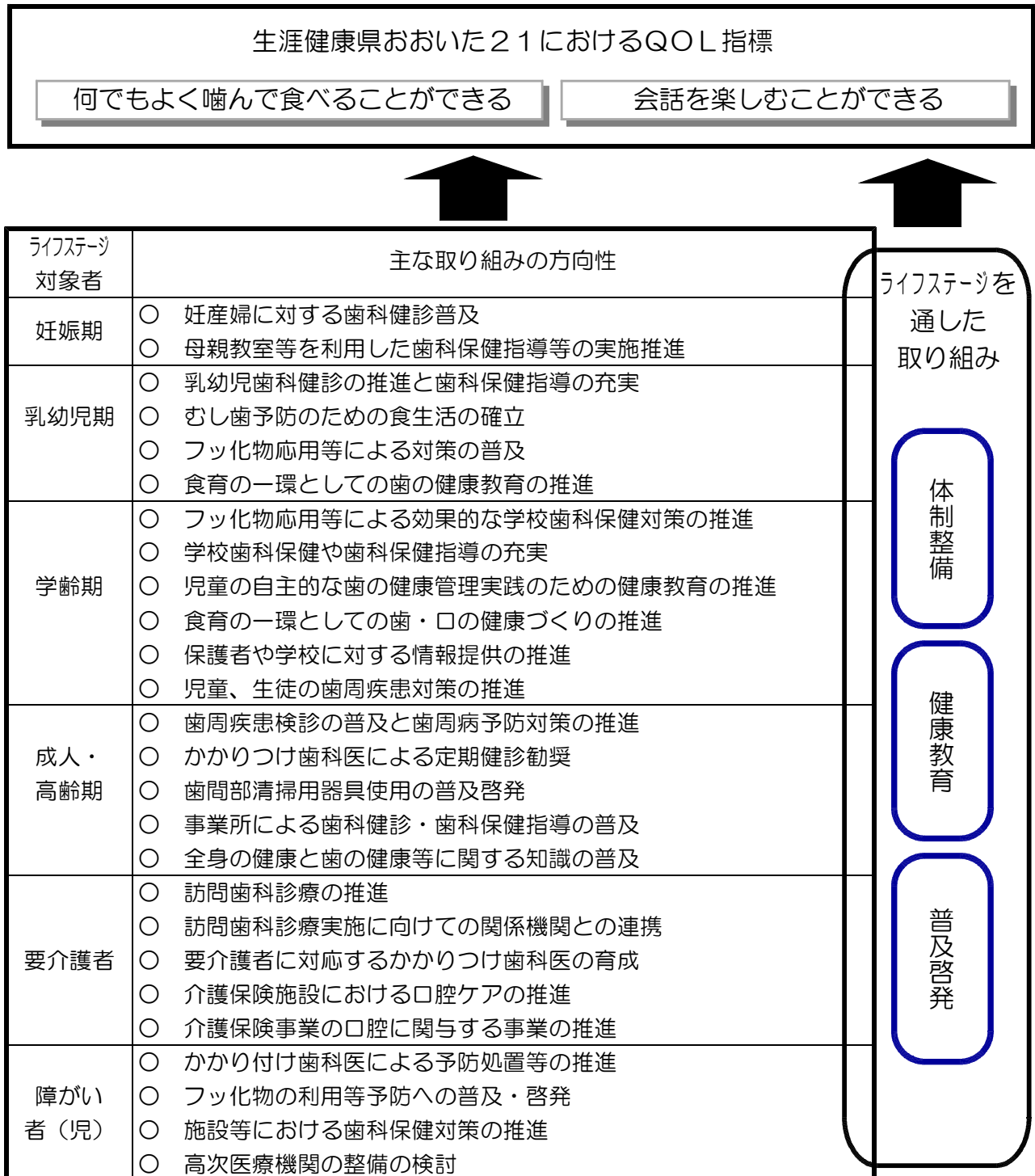
4 計画の期間

平成22年度を初年度とし、期間は「生涯健康県おおいた21」の計画期間にあわせ平成24年度までとします。

II ライフステージ別の歯科保健対策

すべてのライフステージに応じた具体的な施策展開を行うため、本計画では、妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人・高齢期という4つのライフステージ、及び、要介護者、障がい者（児）の2つの対象者に分け、それぞれに必要な歯科保健対策について記載します。

こうした対策が、各ライフステージ間で切れ目なく推進されていくことが必要です。



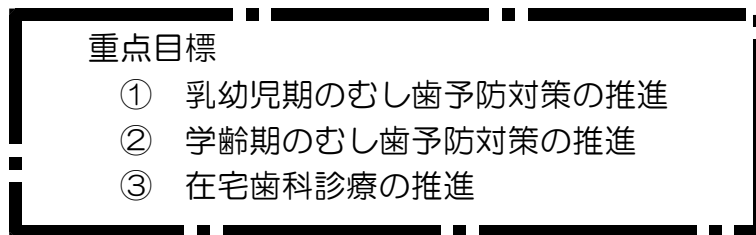
Ⅲ 計画推進のための基盤整備

1 重点目標

【大分県における歯科保健の主な課題】

- ① 3歳児1人平均むし歯本数が全国ワースト1（平成19年度 1.86本）
- ② 12歳児の1人平均むし歯本数が全国で3番目に多い（平成20年度 2.2本）
- ③ 要介護者や寝たきり等の障がい者（児）に対する歯科保健対策の推進

本計画では、各ライフステージ別に施策や目標を示しますが、推進にあたって特に以下の3つを重点目標とし取り組みを行っていくこととします。



2 体制づくり

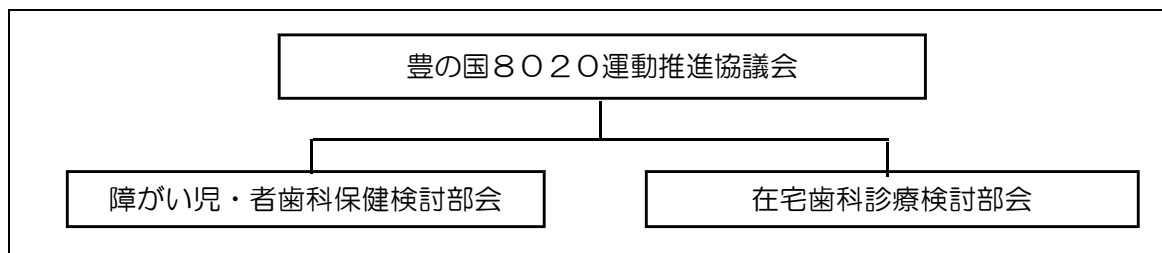
- 歯科保健従事者の研修充実
- フッ化物塗布ができる
歯科医療機関の情報提供

3 関係者間の連携

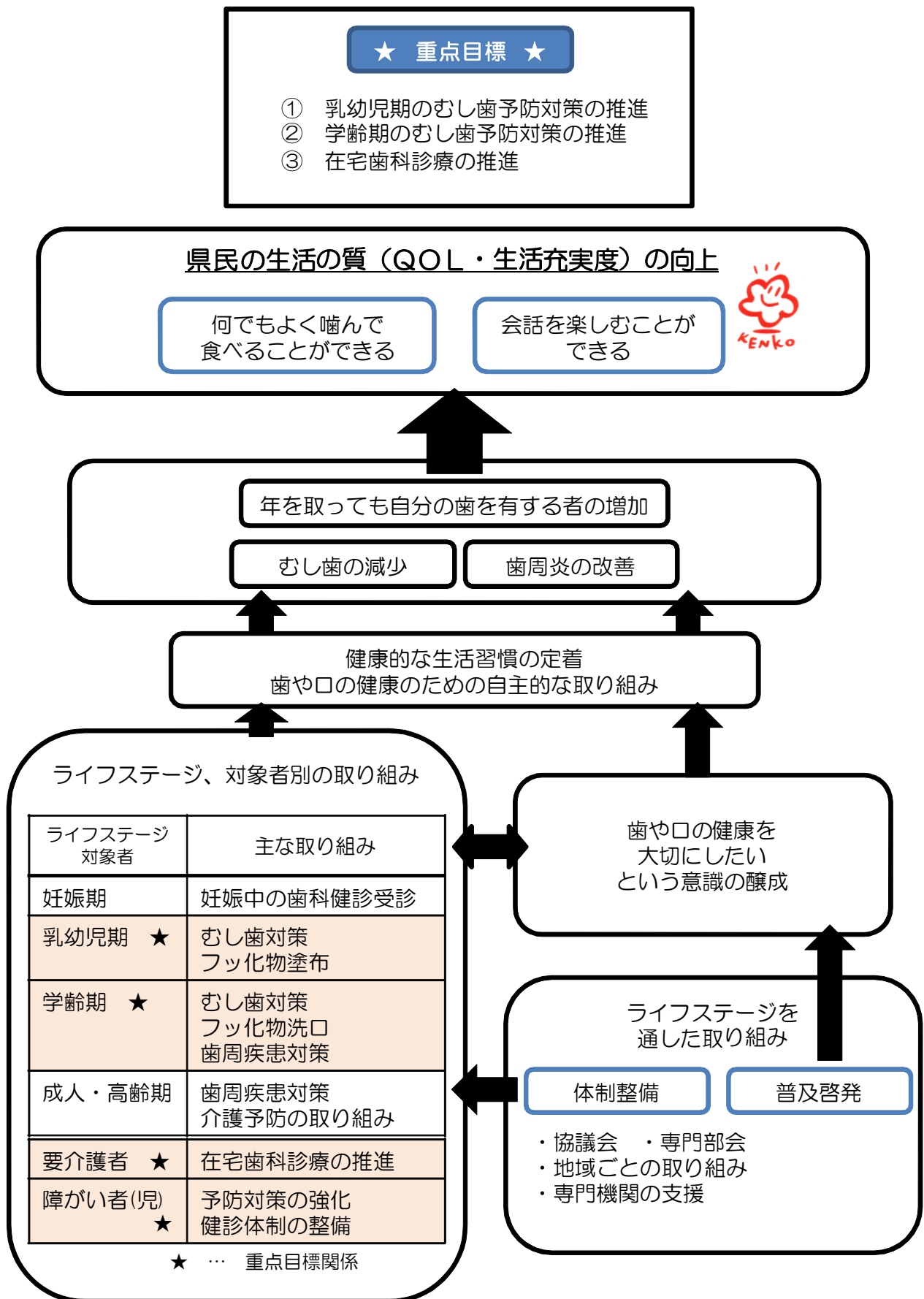
- 地域ごとの取り組み
- 保健医療福祉の連携
- 地域保健、学校保健、
産業保健の連携
- 食育の推進

Ⅳ 推進体制について

豊の国8020運動推進協議会及び2つの専門部会において、各関係機関から成る委員で協議を行いながら事業を推進していきます。



・・・ 「大分県歯科保健計画（仮称）」の目指す姿 ・・・



大分県歯科保健計画（仮称）における指標及び目標値一覧

… 重点目標関係

ライフ ステージ 対象者	指 標	大分県歯科保健計画 策定時直近の値		目標値（24年度）		全国値
		出 典		大分県歯科 保健計画	生涯健康県 おおいた21	出 典
妊 娠 期	妊娠中の歯科健診受診者	—		増加	—	—
	産科医療機関等での妊産婦 の歯科保健指導等実施率	妊娠中 51% 産後入院中 8% 産後1か月健診時 5%	平成21年度健康対策課調べ	100%	—	—
	妊産婦を対象に歯科健康教育・個別指導を実施する市 町村	77.8% (14市町村)	平成21年度健康対策課調べ	100% (18市町村)	100% (18市町村)	—
乳 幼 児 期	3歳児1人あたりむし歯本数	1.64本	平成20年度母子保健情報統計	1.5本以下	1.5本以下	1.00本 平成19年度母子保健情報統計
	3歳児むし歯をもつ者の割合	37.1%	平成20年度母子保健情報統計	33%以下	33%以下	25.9% 平成19年度母子保健情報統計
	フッ化物塗布実施市町村	44.4% (8市町村)	平成21年度健康対策課調べ	100% (18市町村)	100% (18市町村)	—
	2歳児歯科健診実施市町村	5市町村	平成21年度健康対策課調べ	増加	—	—
	フッ化物使用がむし歯予防 に効果があることを知って いる人の割合	77.8%	平成16年度県民生活習慣実態 調査	100%	100%	—
学 齢 期	12歳児1人あたりむし歯 本数	2.2本	平成20年度学校保健統計調査	1.5本以下	—	1.5本 平成20年度学校保健統計調査
	むし歯をもつ者の割合					
	小学校 男性	78.0%	平成20年度学校保健統計調査	70%以下	80%以下	65.2%
	小学校 女性	75.0%		70%以下	80%以下	62.3%
	中学校 男性	67.7%	平成20年度学校保健統計調査	60%以下	80%以下	54.0%
	中学校 女性	71.9%		60%以下	80%以下	58.1%
	高等学校 男性	81.1%	平成20年度学校保健統計調査	80%以下	80%以下	63.4%
	高等学校 女性	85.6%		80%以下	82%以下	67.7%
学校保健委員会の設置率	小学校 48.3% 中学校 47.8% 高等学校 100.0% 特別支援学校 100.0%	平成21年度体育保健課調べ	100%	—	小学校 86.3% 中学校 84.3% 高等学校 84.1% 特別支援学校 91.7% 平成20年度体育保健課調べ	
フッ化物洗口実施学校数	小学校1校 中学校1校	平成21年度健康対策課調べ	増加	—	—	

ライフ ステージ 対象者	指 標	大分県歯科保健計画 策定時直近の値		目標値（24年度）		全国値
		出 典		大分県歯科 保健計画	生涯健康県 おおいた21	出 典
成人 ・ 高 齢 期	40歳代で進行した歯周炎に罹患している人（4mm以上の歯周ポケットを有する者）の割合	58.5%	平成14年歯周病罹患実態調査	35%以下	35%以下	35.9%
	60歳で24本以上自分の歯を有する者の割合	45.5%	平成16年度県民生活習慣実態調査	55%以上	55%以上	60.2%
	80歳で20本以上自分の歯を有する者の割合	23.8%	平成16年度県民生活習慣実態調査	30%以上	20%以上	25.0%
	定期的に歯科健診を受けている者の割合（20歳以上）	33.0%	平成16年度県民生活習慣実態調査	40%以上	30%以上	—
	40～50歳代における歯間部清掃器具を併用している人の割合	40.1%	平成16年度県民生活習慣実態調査	50%以上	50%以上	40歳(35～44歳) 39.0% 50歳(45～54歳) 40.8%
	喫煙が歯周病の誘引であることを知っている人の割合	41.3%	平成16年度県民生活習慣実態調査	100%	100%	35.9%
	歯周疾患検診実施市町村	33.3% (6市村)	平成21年度健康対策課調べ	100% (18市町村)	100% (18市町村)	—
	口腔機能向上プログラム実施市町村数	10市町村	平成21年度高齢者福祉課調べ	増加	—	—
要 介 護 者	訪問歯科診療の利用者数	—	—	増加	—	—
	訪問歯科診療に関する研修を受講する歯科医師数	—	—	増加	—	—
障 が い 者 (児)	障がい者（児）入所施設の歯科健診の実施率	50%	平成17年度実施アンケート調査	100%	—	—
	障がい者（児）の歯科治療に対応できる医療機関数	種類・程度によって受入れ可 275施設 すべて受入れ可 16施設	平成19年3月 歯科保健サービスマップ	増加	—	—
	入所者や利用者のむし歯予防に取り組む施設数	—	—	増加	—	—